

平成29年度 帯広市教育研究所 第2回 運営委員会 記録

日時 平成30年2月22日(木) 10:30~12:00
場所 帯広市教育研究所 研修室

<出席者>

嶋崎教育長	中野学校教育部長
橋場学校指導担当部長	福原企画調整監
村松学校指導担当企画監	
井出賀津雄委員長	瀧川 秀敏副委員長
市之川 敦子委員	松本 奈津子委員
谷保 寿彦委員	杉本 伸子委員
堂山 貴也委員	菅原 晴彦委員
中村 巳佐子委員	多治見指導主事
	本郷事務員

<進行次第>

1 嶋崎教育長挨拶

2 運営委員長挨拶

3 議事

- (1) 平成29年度事業報告
- (2) 平成30年度事業計画(案)
- (3) その他

4 質疑応答(・ご意見 ◎質問 →回答)

- ・研究所の取り組みをぜひ家庭向けにもっと発信してほしい。先生は授業だけでなく研究もしていると、改めて感じた。
- ・小中学校向けの美術展示もぜひ活用してほしい。身の回りは全て美術デザインである。美術館にぜひ足を運んでいただきたい。
- ◎研究所のホームページについて、家庭からのアクセスはわかるか？
→HPについては、アクセスカウンタで閲覧数をカウントしている。しかし、それがどこからアクセスされたものなのかということにはわからない。どれくらい家庭からのアクセスがあるかというのは大変貴重な情報なので、何らかの手立てで調べていきたい。
- ・ホームページに掲載されている教材が大変充実している。保護者同士の関わりの中で話題にしている。しかしまだまだ認識不足の現状があるので、保護者会へもっと周知の方法を考えて欲しい。
- ・ホームページの問題を印刷し子供に見せたところ、「このプリントは見た事がある！」との反応があった。研究所の教材が現場でもしっかりと活用されていることがわかる事案であった。
- ・新聞社の記事に大きく掲載されているので、この1年の研究所の活発な取り組みについてよくわかった。
- ・帯広市教育研究所という施設は、市P連の役員は分かるが、一般にはまだまだなじみが浅い。市P連教育部とのタイアップをして、市P連から各単Pへ情報をおろすなど、研究所の周知を共に工夫していきたい。
- ・ホームページのバナーには、「ここに教材がある」ということがわかりづらい。イラストをつける等、クリックしやすくなる工夫をしてほしい。
- ・先程から話題になっているホームページの教材については、年度末に研究所から出され

た「ホームページ内の教材紹介のプリント」を出して、その後、学校だよりでさらにお知らせをした。徐々に広まってきた感がある。

- ・クラウド型サーバーシステムの教材類やホームページにつけた図書検索システムのおかげで、教職員と研究所が身近になってきた。著作権上、簡単に学習プリントを印刷して使えない時代なので、研究所作成の問題集は現場として大変助かっている。
 - ・研究所の多岐にわたる調査・研究の内容を改めて強く感じた。素晴らしい成果物の数々である。しかし、現場の活用と意識はまだまだである。長期休業中はまだ研修に出やすいが、忙しい日常である。それでも、もっと学校で頑張り、学校内からも研究所を応援していく。
 - ・学校では「家庭学習」が1番の課題だが、今回紹介があったデータベースやホームページは大きな力となる。
 - ・元研究所員として、自分たちの研究がこのように伝わっているということがわかった。やはり全ての研究は子どもたちのためにあると再確認した。所員の先生方の負担も大きいと思うが、頑張ってもらいたい。
 - ・データベース教材については、自らも作成に関わったが、全国学力・学習状況調査の結果などをもとにして、効果的なものを作成している。
 - ・学習規律の動画教材があったが、大変素晴らしい内容であり、エリアで9年間のスパンを見通した活用も視野に入れ、その使用について積極的に進めていきたい。
 - ・教諭として、研究所が作成した教材を利用する立場からだが、大変忙しい現場の中、研究所作成教材については大いに助けられている。
 - ・校内でもICTの活用等について所員の先生や協力員の先生などを通して情報提供がある。
 - ・研修についてはワンナップ研修会で呼んでいるような、学校業界内ではわからない業種の講師から話を聞くことが大変参考になる。
 - ・先ほどの委員と同じく教材を利用する立場から、研究所作成教材の利用と、その活用と、我々教職員の学びについて改めて考えた。
 - ・私自身も元所員としての立場から、自分たちが取り組んできた研究を、現場でしっかり利用してもらえるとやはり嬉しい。
 - ・このような取り組みをぜひ若手に伝えていき、次の世代へつなげていきたい。職場内でしっかりと発信していくことが研究所の運営委員としての1つの役目である。
 - ・全体を通して、計画に即した研究の実践をされているという印象を受けた。今の先生方は大変忙しいが、各種研修には今後も積極的に参加をしてほしい。
- ◎教職員全員が出る教育講演会というものがあったが、終了後にとっているアンケートにはどのような記述があるか？
- アンケートについては、小学校・中学校・各教科担当・特別支援・事務職等、帯教研の会員は様々な専門性をもつので、やはりそれぞれが自分事として聴ける講演内容を希望する記述が多い。他業種の方の話等は、まさしくそれにあたる。
- ◎この多忙なご時世の中、メンタルヘルスについても研修を充実させていった方が良いのではないかと感じている。
- メンタルヘルスについては、学校教育指導室が実施する講座も含めて、現在もいくつか行っているが、さらに充実させていきたい。
- ・道徳については、既に発刊済みのパンフレットについては、市内でかなり使われていると感じる。これから発刊される指導案集についても大いに期待している。
 - ・家庭学習では宿題作成時、問題集のコピーが厳しい状況にある。つまり先生方が自分で作っているのも多く見られ、大変多くの時間を使っている。研究所の教材をうまく活用して、現場の先生方にがんばってもらいたい。また、家庭で使えるように、ホームページに教材をアップロードしているのは大変素晴らしいことである。

5 中野学校教育部長挨拶

6 閉会